

広報 Koho Gallery
展示室

第49回

— 秋季特別展 —

江戸のMODE

浮世絵美人の総合ファッションガイド

—江戸の小袖—^{せっか}雪華模様—

美しい着物を見るのは、浮世絵美人画鑑賞の楽しみのひとつです。

江戸時代には現在の和服のもととなる小袖が上層階級から町人にまで普及しました。初期には、絞りと刺繍と箔で生地が見えないほど全面を埋め尽くした意匠が流行りますが、幕府からたびたび出された奢侈禁止令により、豪華な総模様の小袖は次第に減っていきます。

しかし、着物を楽しみたいという町民の欲望は絶えるはずもなく、江戸後期には、庶民が気軽に楽しめる木綿や紬、緋に様々な模様が生まれました。

図は、美人画の名手、溪斎英泉による「江戸の松名木尽 押上妙見の松」。女性が着ている小袖は、青地に白い雪の結晶模様です。

これは「雪華模様」と呼ばれ、19世紀中期頃流行った模様ですが、その仕掛け人は意外なことにお殿様でした。

雪の結晶が六角形であることは中国からもたらされた知識により平安時代から知られ、日本では六弁の花、六つの花などと呼ばれていました。しかし、実際に確認した人はおらず、江戸時代に下総国古河藩主、土井大炊利位が観察したのがその最初といわれています。

利位は蘭学者の鷹見泉石の協力のもと、20年にわたり顕微鏡で雪を観察し続け、『雪華図説』（天保3年刊）とその続編（天保11年刊）に183種の雪の結晶を発表します。私家版であったこれらの本は、贈答用に用いられ、大名公家のあいだで評判になりました。



えどのまつめいぼくづくし おしあげみょうけんのみつ
「江戸の松名木尽 押上妙見の松」
溪斎英泉 千葉市美術館蔵

その後、越後国の商人が、『北越雪譜』という本に、新潟地方の地勢・気象・行事・歴史などとともに利位が観察した雪華35図を掲載したところ、その珍しさからもてはやされ、ベストセラーになります。

雪の結晶に魅せられた利位は、自身の調度品や着物に雪華模様をちりばめるほどの傾倒ぶりでしたが、庶民のあいだでもこの模様は人気を博し、服飾、小物、茶碗などに取り入れられました。

「雪華模様」は土井利位の命名によるものですが、利位の官職名をとって「大炊模様」とも呼ばれています。また、今日でも利位は、「雪の殿様」の愛称で地域の人々に親しまれています。

馬頭広重美術館 学芸員 長井裕子

【会期】前期 ~10月18日(日)
後期 10月23日(金)~11月23日(月祝)

【記念講演会】11月1日(日)午後1時30分
演題:「浮世絵美人画に見る流行の風俗」
講師:千葉市美術館学芸員 田辺昌子氏

【ミュージアムトーク(展示解説)】
後期 10月24日(土)
当館学芸員 午後1時30分~

【開館時間】午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は4時30分まで)

【休館日】10月13日、19日~22日(展示替)、26日、
11月2日、4日、9日、16日

広報紙に広告を掲載しませんか?

掲載位置:各ページの下一段
サイズ:縦50mm×横88mm
料金:2色刷 1回5,000円~
カラー刷(裏表紙のみ)1回10,000円~
※複数月連続掲載の場合は割引あり
申込期限:掲載希望する月の初日の40日前
※10月21日までに申し込まれた場合、12月号から掲載可
※詳しくは企画財政課広報広聴係(☎0287-92-1114)までお問い合わせください。

那須ナンバー開設記念月間
10月10日(土)~10月31日(土)
那珂川町にお住まいの方は、上記の期間
入国無料!
本人だけが1にて住所の分かる身分証明書をご提示下さい。
那須どうぶつ王国
TEL 0287-77-1110 平日10:00~16:30
那珂川町那須郡那珂川1042-1 土曜9:30~17:00
http://www.nasudobutsukuni.com/ 定休日:休館日(連休日、祝日を除く)
あいでナス